



# 日本聖書神学校 学報

Japan Biblical Theological Seminary

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16・☎03-3951-1101～2・Email: jbts@jbts.ac.jp

2009年9月15日

第131号

発行人 今橋 朗  
印刷所 山猫印刷所

## 今号の内容

巻頭言	1
夏期伝報告	2
卒業生研修会報告	3
オープンキャンパスのご案内	3
図書館だより	4
入試要項	4
キリスト教研究所からのお知らせ	5
2008年度会計収支報告	5
Diary—学事報告	6
個人消息	6

## Flowers of the garden 庭の草花

神学校の聖書植物ガーデンに植えられた草花を紹介します。



ういきょう (茴香)

学名 *Foeniculum vulgare* Mill  
英語名: Fennel

地中海周辺に自生するセリ科の多年草で、香料・薬草として用いられる。マタイ23:23に薄荷、いのんどと共に出てくる。但し、口語訳聖書ではギリシア語キュミノスからクミンと訳され、ルカ福音書では別種の芸香が挙げられている。クミンは一年草。イザヤ28:26のクミンも別種と思われる。

ウガリットの遺跡ラス・シャムラは「ういきょうの丘」の意味。神学校には校舎南側の通路脇にある。1m余の高さで8～9月に開花。

## 【巻頭言】

### 「自己への配慮」から見えてくること



教授 高橋克樹

「一つの人格としての他者が成長するのに役立つような関係を、私がどの程度まで創り出すことができるかは、とりもなおさず、私自身の内で私がどの程度にまで成長したかという目安になる」。

このカール・ロジャーズの言葉は、カウンセリングにおけるセラピストとクライアントの相補的關係を見事に言い当てています。セラピストはクライアントに共感しつつ自律的な成長へと導きますが、同時にケアを通して自分の内面に生じた感覚や感情の発生、流れ、変化に心を向ける『自己への配慮(ケア)』をしています。自己理解の深い人は、他者をケアしながらケアに関わっている自分自身をよく見守っているため、助けを求めてきた人の中にさえ、自分を造り変えてくれる力があることを見出すといえます。

ところが、私たちの多くは日常生活において自分自身のことを気遣ったりケアすることをしていません。ですから、ケアによってさまざまな心理的葛藤を体験しても、傷ついた自分自身をケアしていないのです。そのため、負担感や無力感、被害感などのマイナス感情がわきあがってきた自分自身の反応に戸惑ったり、必要以上の不安感や同情心をかき立てられることが起こってしまいます。逆に、役割意識や自己犠牲精神によって傷ついた心を封印することもあります。

しかし、人が人に関わる現場においては、援助する側に生じた『反応』もきちんと受け止めて、それを自己理解に至る回路として用いなければ、その後の適切な『対応』は生まれてきません。他者に配慮したり援助する行為は、他人のために自分の時間やエネルギーが割かれるので消耗させるようなマイナスイメージがありますが、実は自己理解の深化を促進させる機会でもあるのです。もっと言えば、自己理解が促されないようなケアは自分

勝手での外れな思いこみになっている危険性があるのです。

このことは牧会にも当てはまります。牧会のことを英語で Care of Soules と言うように魂をケアする行為ですが、牧師が自分の内面に生じた感覚や感情の流れを十分に把握していないと、「なぜ訪問を嫌がられたのだろう」「最近、どうして自分への批判が増えてきたのか」といった表面的な評価にとどまってしまうがちです。結果として、相手の態度や意見にそのまま『反応』した行動を取ってしまう。しかし、拒否的な態度はケアを受ける人が退行していたり、牧師のケアが的外れである場合もあるのです。その事柄を見極める手立ては『自己への配慮』というフィードバックからしか見えてきません。

教会における牧会をみると、まだまだ牧師が信徒に対して「一方的に」「独占的に」行うものと考えられているところがあります。けれども、それは人間同士に本来相互に配慮しあう関係性があることを軽視しています。

人間は成人に至るまで20年以上にわたってケアを受け続けます。赤ん坊という全く無力な状態で生まれ、一人立ちするまでケアを受け続けるという摂理は、自分がケアをする側になったときのために神が用意した必要不可欠な時間であり体験だと言えるでしょう。同時に、ケアを受け続けることで『自己への配慮』の術を学ぶときでもあります。

このようにケアには「他者をケアすること」と、「自分をケアすること」の両面があり、ただケアの対象が自己か他者かの違いだけなのです。他者へのケアに自己理解を促す豊かな力があることを知っている限り、教会においても、他の人間関係においても互いが要求しあう関係に退行せずに、配慮しあう大人の関係が築けるのではないのでしょうか。

# 夏期伝道実習報告

## 夏期伝道実習生を受け入れて

夏期伝道実習。私は神学生時代、三度その経験に与りました。どの実習も忘れ難い出来事として思い出します。しかし、実習で経験したことへの「意味付け」という作業は、ひと夏の思い出に留まらないことを改めて知らされます。福音の伝道者として立たされた今、もはや私自身のごく身近にある問題として前述の作業が続けられているのを思うからです。そう考えれば、夏期伝

道実習というのは、10日や二週間という短い出来事から始まる、まさに伝道人生全体における実習へとつながり行く機会なのではないかということを感じます。フレッシュな神学生の実習生活を共に過ごす中で、私自身も「継続実習生」としての充実した日々を送ることができ、感謝でした。

今年度、かねてより夏期伝道実習生を受け入れておられる的場恵美子牧師(48

期)が牧される下田教会と共催で、溝口周子神学生を迎えました。神学生の実習にあたっては、着飾ることのない普段の教会の姿と、伝道者としての牧師の働きを間近で見て戴きたいという願いがありました。そういう意味ではお誂え向きとは言えない、実に大雑把な提示を神学生に対して行ったかもしれません。しかし、ざっくばらんな所にこそ、神様のお働きを中心に据えるスペースが生まれるのだと信じます。今回の経験が、今後の道程を歩む思索の一助となりますことを、喜びのうちに祈り続けたいと思います。この機会を設けて下さった神様と神学校、教会の皆様に感謝申し上げます。



## 「一つの体」として連なる教会

富士山の麓にある岩本教会から、海が目の前の下田教会に実習場所を移した、翌日のことでした。

「地震だ!!」

実習でまさか、災害まで体験するのは。人生初の震度5以上の地震は、立ってられない状態でした。すごい揺れだったにもかかわらず、被害はほとんどなかったのが幸いでした。この地震で、私は怖い思いをしましたが、それ以上に学びの時も与えられたと思います。それは、牧師と地区の教会の密接な関わりを垣間見ることができたからです。地震直後の朝5時半、牧師館には電話が鳴り続けました。朝早くにもかかわらず、同じ地区や教区の教会の牧師か

ら、信徒の方から、その他多くの方が地震を心配して電話をくださいました。

今回、教会と地域のあり方を学びたいと実習の目的に掲げていました。短い実習期間で、その目的をどこで学べるか考えていましたが、一つの災害によって、少しでも学ぶことが出来たと思います。教会と地域、地区の教会のあり方を見ることが出来、大変充実した日々となりました。一つの教会だけでなく、「一つの体」となって連なっている教会同士が協力して、一人の牧師の牧会が出来ると、理解できました。

夏期伝道実習の機会を与えてくださった神に感謝して、自分の糧としていきたいです。



美大島の中心地に移動し過疎化傾向にある瀬戸内において、教会と保育園の運営に腐心されておられます。教会が附属保育園をもてば、そこで働く方々の雇用の継続にも、牧師は責務を負う厳しさを学びました。

名瀬教会の駒木牧師は30歳とお若いですが、教会の新築・移転の重大事項を抱えながら積極的に牧会に努めておられます。また名瀬教会和光伝道所の石原牧師・治代ご夫妻には、80歳を越えるご高齢とは思えない、若さと人徳の豊かさに感銘させられます。

鹿兒島加治屋町教会の飯田牧師・ご家族のみなさま、滞在中は親しく私に色々ご指導とアドバイスをいただき、また教会の家族集会も経験させていただき有難うございました。

私の夏期伝道実習はこのように、各教会の牧師先生方々並びに関係者の皆さまに大変お世話になりました。心よりお礼と感謝を申し上げる次第です。この学びを、今後役に立てるべく頑張りたいと思っております。有難うございました。

## 厳しい現実に触れつつ...

3年 牧内寛助

8月6日～23日に亘り、喜界島・徳之島・奄美大島そして鹿兒島へ伝道実習をさせていただきました

喜界教会は築7年の綺麗な教会です。然し、喜界島も信徒の方々の高齢化が進み教会に来れない方も増えています。丸山牧師と文子夫人は、時に差し入れの日用必需品や食品を携えながら信徒の方々のご自宅を訪問して、教会を守られておられます。

徳島教会の青山牧師は教会の中に「共同作業所 ワイド あけぼの」という社会福祉事業所を置き、自分もスタッフの一人になって運営されています。さらに、徳之島の特産品を各地の教会バザー等に販売し教会収入の別途の道も模索実践されておられます。今後の教会の在り方の一つを、青山牧師から教えられた思いです。

瀬戸内教会の三和牧師は、人々が奄

# 卒業生研修会報告

## 「今日におけるペトロ研究——エキュメニズムの視点から」

講師：川島貞雄先生（元本校教務部長、新約学者）

川島先生が本校での教授としてのお働きを終えられたのは、今から20年前のことでした。当時、先生に教えていただいたわれわれ卒業生は先生の辞任を本当に残念に思いました。今回、久しぶりに先生の講義をお伺いすることができ、懐かしく、また、その内容ゆたかなお話に深く教えられながら聞き入りました。以下、講演の要旨を記します。

ペトロは、ガリラヤの無学な漁師、主を土壇場で否認した弟子、アンティオキアでパウロにその「不十分な信仰」のゆえに叱責された使徒、といった姿から、弱い人、日和見主義者、という受け止め方をされることが多い。しかし、M. ヘンゲルも言うように、ペトロはこれまで不当に低く評価されてきた、と言える。

マタイ 16:18 の「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上に教会を建てる」、また、同じ 16:19 の「私はあなたに天国の鍵を授ける」の、これら二つの聖句は、カトリック教会においてペトロを初代ローマ教皇とすることの根拠とされているが、「教会の岩（土台）としての地位と役割は、ペトロにのみ一回的に与えられたもので、継承され得ない、というクルマンの主張は、今日カトリックの釈義においても認められている」。「ペトロの使徒としての偉大さは、彼独自のものであって、その職務と権威はなんびとも継承することはできない」。

今回のテーマである、エキュメニズムの視点からペトロを考える、ということから取り上げるもうひとつの聖書箇所は、ガラテヤ 2:11 - 14 に記されている「アンティオキアにおける衝突事件」である。ペトロは、ユダヤ人キリスト者と異邦人キリスト者から成る混成のアンティオキア教会で、共同の食事を受け入れていた。しかし、「ユダヤ人を恐れて」食事の場から身を引いた。それをパウロがきびしく批判した、という出来事であった。なぜペトロはそのような行動をとったのか。当時（紀元 49 年頃）、ユダヤでは熱心党を中心とする反ローマ的な動き、民族主義の高まりの中で、律法遵守が強調され、律法をないがしろにするような動きがキリスト教会に見られた場合、特にエルサレム教会に迫害が及ぶ危険があった、という。ペトロが共同の食事から身を

引いたのは、エルサレム教会（ユダヤ人教会）と異邦人教会との一致を願っての行動であった（グニルカ、ヘンゲル）。

いずれにせよ、ガラテヤ書におけるこの「衝突事件」は、パウロの側からの一方的な報告で、しかもその後ペトロはどのような行動をとったのかについては何も記されていない。もしパウロの叱責が功を奏したのであれば、パウロがそのことを書かなかったはずはない。したがって、おそらくパウロはこの衝突事件で敗北したのだと思われる。パウロはこの事件ののち、アンティオキア教会との関係を失ったようだ。そしてペトロは、エルサレムの使徒会議で、異邦人キリスト者に「偶像に備えられた肉を食べない」など、四つの掟のみを守らせることで、ユダヤ人教会と異邦人教会の一致を保つことに成功した。つまり、この四つの掟を守れることを条件に、共同の食事をユダヤ人教会に認めさせた可能性がある。

ペトロはユダヤ人のための使徒というだけでなく、異邦人のための使徒で

もあった。彼は「全教会の使徒」（P. パーキンス）とも言える存在であった。パウロもまた、教会の一致のために労した人であった。彼はエルサレムに行けば逮捕される危険を承知で、異邦人教会から集めた献金をエルサレム教会に持参しようとした。それはひとえに、ユダヤ人教会と異邦人教会の一致を願ってのことであった。

最後にまとめとして、グニルカの次の文章を引用する。「宗教改革者たちは、特にパウロに依拠した。義認の教えは、彼の教えに根ざしている。宗教改革によって生じた分裂は、つまりは、ペトロとパウロの分裂としても見るができる。この二人の使徒は互いに難しい関係にあったが、一貫して一致を保持した。＜中略＞後にペトロへの一方的な移動が起きた。今や宗教改革によって取り上げられたパウロの関心事（信仰義認などの）を、エキュメニズムの意味において取り上げ、一つの教会を豊かにするために、それをいっそう力強く取り入れる時である」。

## オープンキャンパスにおいでください



つながろう。つなげよう！  
アンデレのように

2009年10月27日（火） 18:00～

「つながろう。つなげよう！ アンデレのように」をテーマに、2009年度のオープンキャンパスが10月27日（火）午後6時から本校で開催されます。礼拝説教はミュージシャンとしても活躍する陣内大蔵先生、公開授業は日本キリスト教史の講師である戒能信生牧師が「プロテスタント宣教150年を考える」と題して行います。

オープンキャンパスの目的は、お支えをいただいている諸教会の信徒の方々に神学校をよりよく知っていただく機会とするだけでなく、献身を考えている方に神学校生活をじっくり味わってもらうために企画したもので、2001年から数えて今年で9回目の開催となります。礼拝後に食事を共にしながらの交わりのときがあって、公開授業や古本市が開催されます。喫茶コーナー、受験相談コーナーが設けられ、図書館や学生寮ツアーなどの見学会も予定されています。

特に、献身を考えている方々が神学生や教員と触れ合うことを通して、神学校生活への決意のときとなることを願っています。

# 図書館だより

日本聖書神学校キリスト教研究所図書館

No.3

図書館長 石川栄一

遠隔地貸出サービスをご利用ください

図書館もスタートして2年が過ぎました。蔵書内容も次第に充実し、利用者の数も学内、学外ともに増えつつあります。

さて、そのような中でこの7月より、遠隔地の方々への貸出サービスをスタートしました。すでに自分でほしい本は大体、揃えておられる方もあるとは思いますが、しかし、キリスト教関係の新刊本は年々、高騰し、自分の読みたい本を購入したいと思っても予算の点で躊躇してしまったり、あるいはあきらめてしまったりしている人の方が実際には多いのではないかと思います。その場合には一般の方々と同様に、利用登録をまずしていただき(年間2000円)、遠隔地利用と申請していただければ、どなたでもこのサービスを利用できます。発送費用は利用者負担となりますので、予めまとめて切手を送ってください。また、遠隔地の方々への貸出期間は、郵送・返却期間を含めて3週間です。

遠隔地で宣教に従事される方の場合、キリスト教書店が遠方にある状況の中、説教準備などで、急に調べる文献を取り寄せたいときは便利です。日本各地の教会に仕える図書館として、少しでもその任が果たされれば、スタッフ一同幸いに思います。どうぞ遠慮なく、このサービスを、ご利用ください。

## ILLもご利用いただけます

ILLという言葉をご存じでしょうか。これは、インター・ライブラリー・ローンの略語で、大学図書館ネットワークの参加機関間での圖書の「相互貸借」、文献の「相互複写」システムのことです。

つまり、わかりやすく言えば、自分の図書館にない本でもこのシステムを利用して本や文献を取り寄せることができます。ですから、わたしたちの図書館にない本も、利用することができ、さらには、資料の複写・取り寄せも可能です。

収集の対象が異なるため、わたしたちの図書館では補いきれない本についてもILLにより対応できるよう整えましたので、どうぞこちらをご利用ください。

## 図書館フォーラムを今年も開催しました

今年の夏も8月20日(木)～21日(金)

の2日間、わたしたちの神学校を会場にして、第4回図書館フォーラムを開催しました。全国にあるキリスト教神学校の図書館に勤める館長や司書のための集まりです。互いに参加者が図書館業務の問題や悩みを語り合い、また、他の図書館を見学して、研鑽しあう場です。

図書館の日頃の業務は、地味且つ、孤独です。参加者も、このフォーラムに参加することで新しい活力を得て帰る人が多いようです。

今年の講演は「図書館業務におけるヘブル語の知識」という題で、私が講義させていただきました。この種の講義は、はじめてで少し手感いましたが、楽しく講義することができました。図書館業務に最低限、必要なヘブル語の初歩的な知識についてお話ししました。

その後、種々の課題ごとにグループ・ディスカッションをして、日頃の問題を分かち合い、発表しあいました。そして翌日は、聖イグナチオ教会及び聖三木図書館を見学、いくつかの示唆を参加者は受けたようです。

こうしたフォーラムが今後も継続して行われるようお願い、努めたいと思います。今回の参加者は11の神学校図書館から17名の参加者が与えられ感謝でした。

いま神と人と世界をつなぐ  
あなたが必要とされています

日本基督教団認可神学校

# 日本聖書神学校

時代の要請に応えられる牧師を養成し多くの卒業生が国内外で活躍しています。

日本聖書神学校は福音主義キリスト教の立場に立ち、主の教会の委託を受けて、聖書に基づき、深い信仰と、誠実かつ熱心な神学研鑽、歴史的現実への洞察と他者に共感できる感性を兼ね備えた、福音宣教への召命に応えようとする伝道者を養成することを目的としています。

**秋季入学試験**

出願期間  
2009年10月1日(木)～11月9日(月)

試験日  
2009年11月14日(土)

**春季入学試験**

出願期間  
2010年1月7日(木)～2月9日(火)

試験日  
2010年2月18日(木)～19日(金)

**問い合わせ**

詳しくは学校案内、入試要項をお取り寄せの上、ご覧ください。

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-14-16  
日本聖書神学校 総務部

**受験資格**

1. 大学卒業またはそれと同等の学力を有すると本校において認められた者。
2. 受洗後2ヶ年以上の忠実な教会員であり、伝道の召命を受け、所属教会牧師と役員会の推薦するものであること。

・日本基督教団以外の教派からの献身者も受験することができます。

・最終学歴が大学卒業でない者にも「正科生に準じる者」として入学を許可する場合があります。ただし、入学後、本校が必要と認める学科について所定の単位の修得が必要となります。

Tel: 03-3951-1101 Fax: 03-3951-3044  
Eメール: jbts@jbts.ac.jp  
HP: <http://www.kt.rim.or.jp/~ky01-nss/>



# 日本聖書神学校キリスト教研究所からのお知らせ

郷 義孝

日本聖書神学校キリスト教研究所は新図書館完成の際、国立情報学研究所図書目録情報サービス（NACSIS-CAT）に加盟したのを機に発足しました。しかし、その前身は1982年の日本聖書神学校キリスト教研究会に遡ります。2008年9月には研究所規則が理事会・評議員会で承認され、教授会の議を経て、郷教授が責任を取ることとなりました。まだ流動的な面はありますが、神学校のアカデミズムを担う重要な機関として覚えていただき、目的達成のためお祈りいただければ幸いと存じます。

## I. 研究所の事業計画（暫定）

### 1. 長期事業計画

- 神学校の若い教員を育成するシステムを作っていく。具体的には研究員となってもらい、各自のテーマに関する学術研究や継続的学び、さらに留学などを組織化して行い研鑽を深めてもらい、その後、神学校に貢献していただく。
- 従って、卒業生の継続教育のプログラムを研究し、実施する。
- 将来的に、専門職（牧会のプロフェッショナルとして）に関する資格や学位を提供する学校体制を構築するための調査研究を行う。（米国のD.Min., M.Div., Th.M.のような学位を授与出来る体制作り、具体的には、文科省が認める大学院大学乃至専門職大学院を神学校と別に併設する。）

- 英文の研究誌を年一度乃至隔年で発刊する。
- 教職や卒業生の主にアカデミックな図書出版のお手伝いをする。
- その他、キリスト教関連学会の開催誘致やお手伝い。価値ある資料の収集と保存を図書館と連携して行う等。（例えば、本校の設立母体である「福音教会」に関する資料の収集と保存をするアーカイブの創設等）

### 2. 単年度事業計画

- 研究所紀要「聖書と神学」を定期的に刊行する。
- 紀要に関する合評会やテーマによる研究会の定期的な開催。
- 年に一度ないし二度の学術講演会を開催する。（講演内容は紀要に掲載する。）
- 紀要を有効に活用し、神学校、図書館、

研究所と全国の卒業生や研究機関、学術機関との連携やネットワークを構築する。

## II. 来年度主催の講演会（予定）

テーマ 「経典としての聖書と儀礼」  
 ＊ポスト・モダンの多元主義的な時代の中で、聖書が「信仰と生活との誤りなき規範」とする客観性や規範性や枠組みが崩れてきているなか、信仰のどこに聖書を位置付けたらよいのかを模索する学びの一つとして企画。

時期 未定

他の諸行事との関連で決定する。  
 講演者 土屋博 北海道大学名誉教授、  
 北海学園大学教授（新約学、宗教学）

＊なお、旧福音教会関係の資料をお持ちの方は、お寄せ下さい。

# 2008年度会計収支報告

## 2008年会計報告について

学校法人 聖經学園 日本聖書神学校

2009年3月31日  
 （単位：千円）

2008年度における聖經学園日本聖書神学校の収支は、新礼拝堂・新図書館の建築費のために学校債を1億5790万円募集し、それによって建築費用を支払いました。収益会計の大部分を占めている不動産賃料収入は景気低迷のなかでやや減少しましたが、それを賄うかたちで結婚式関連の「その他の収入」が増えました。前年度と比べて大きな変化は、新図書館の完成によって管理経費が増大したことです。また、設備備品費は校舎の空調工事費用です。長期的には、賃料収入の源泉となっているビルの建て替えを視野に入れた長期計画策定の必要があります。

学校会計の収入においては、学生納付金よりも後援会寄付金やその他の寄付金が多く、本校が実に多くの教会、信徒の皆さまの献金・寄付によって支えられているかを物語っています。感謝。

科 目		学校会計	収益会計
収 入	学生納付金	11,949	
	後援会寄付金	14,356	
	新図書館・新礼拝堂建築献金	14,424	
	その他寄付金	12,003	
	教団交付金	1,048	
	収益事業寄付金(収益会計からの献金)	62,000	
	学校債収入	157,900	
	収益事業収入		130,972
	その他収入	4,284	18,656
	現預金からの支出	25,867	25,789
計	303,831	175,417	

支 出	教員・職員人件費	71,257	19,176
	教育研究費支出	23,343	8,898
	管理経費支出	34,413	67,670
	施設備品支出	6,699	
	収益事業寄付金(学校会計への寄付金)		62,000
	借入金返済支出	13,703	
	建築費用支出	154,416	
	租税公課		17,673
計	303,831	175,417	

## Diary 学事報告

2009年4月～8月

- ・入学始業礼拝 説教「神学校——エリコのいちぢく桑」今橋校長、司式・石川教授、新入生14名（正科生5名、聴講生9名）、礼拝後新入生歓迎会、出席者100名 4月3日
- ・教授会（2009年度第1回）4月6日
- ・前期授業開始、教職参加ゼミ（受講者内訳・実践神学2名、組織神学2名、旧約学1名）4月6日
- ・神学基礎講座前期開講（受講者19名）4月13日
- ・学生自治会総会 4月16日
- ・創立記念日 5月9日
- ・創立記念日集会 礼拝説教・寺田進牧師、高橋克樹教授就任式、公開講義「パウロのスピリチュアリティと現代」

## 個人消息

## ■ 今橋 朗校長

- ・4月19日 荒瀬牧師就任式（目白）
- ・5月3日 まぶね教会説教
- ・5月10日 桶谷伝道師准允式（駒場エデン）
- ・5月15日 カウンセリングC理事会
- ・5月16日 日本神学教育連合会総会
- ・5月17日 笠間牧師就任式（田園調布）
- ・5月24日 代々木教会説教
- ・6月7日 金町教会説教
- ・6月16日 神の庭サンフォーレ総会
- ・6月19日 教団讃美歌委員会
- ・6月21日 松代教会説教
- ・6月23日 東日本同信伝道会講演
- ・7月13日 教職者懇談会講演
- ・7月19日 枚岡教会説教
- ・7月26日 上諏訪教会説教
- ・8月24日～26日 キリスト教音楽講習会説教

## ■ 笠原義久教授

- ・5月10日 講演会主催創立記念日集会に出席
- ・5月16日 JATE〔日本神学教育連合会〕総会に出席
- ・7月12日 韓国・首都教会の主日礼拝説教
- ・8月24～25日 卒業生研修会に出席

## ■ 郷 義孝教授

- ・5月10日『聖書と神学』第21号、日本聖書神学校創立六十周年記念号を刊行。論文「プロセス聖餐論再考」と翻訳「この聖なる神秘」（米国合同メソジスト教会の聖餐論）を監訳し投稿発表。
- ・4月15日、6月10日 東洋英和女学院大チャペル説教。

高橋克樹教授、懇親夕食会、出席者87名、5月10日

- ・JATE（日本神学教育連合会）総会に、今橋校長、笠原教授が出席（於・本校）5月16日
- ・ペンテコステ立証祈祷会 5月26～28日
- ・臨時教授会（カリキュラム懇談会）5月28日
- ・後援会役員会 5月29日
- ・理事会・評議員会（第176回）6月12日
- ・教団新任教師オリエンテーションに石川教授が出席（於・伊豆天城山荘）6月16～17日
- ・教授会（第3回）6月18日
- ・教団・神学校等人権教育懇談会に鈴木教務部長が出席（於・本校）6月29日

- ・7月23日 第1回日本聖書神学校60年史編纂委員会開催。於神学校図書館。2、3年後を目途に刊行。各章の大よその執筆担当者を定める。
- ・8月9日 福島、矢吹教会を問安。佐藤健牧師（代務者）に新年度からの教師体制について話を伺い、近隣の卒業生の動向を聞く。
- ・その他、八王子栄光教会、神学校評議員の奉仕を務める。

## ■ 石川栄一教授

- ・4月13日 神学基礎講座開始（ヨシユア記）
- ・5月18日 埼玉三区教師会で研究発表
- ・5月29日 JBTS 後援会役員会出席
- ・6月4日～5日 関東教区総会出席（大宮）
- ・6月16日～17日 教団・新任教師オリエンテーション出席（天城山荘）
- ・6月28日 長浦教会説教奉仕
- ・7月6日～7日 JBTS 同窓会中国支部会出席、講演
- ・7月20日 関東教区宣教総合協議会出席（大宮）
- ・7月24日 図書館運用委員会出席
- ・8月3日～4日 第19回ヘブル語スクーリング「士師記」講演
- ・8月10日～12日 埼玉地区教会全体修養会出席（軽井沢）
- ・8月20日 第4回図書館フォーラムで講演（JBTS）
- ・8月24日～26日 卒業生研修会出席

## ■ 高橋克樹教授

- ・5月10日 日本聖書神学校創立記念日集会にて「パウロのスピリチュアリティと現代」と題して公開講義
- ・5月13日 ルーテル学院大学の包括的

- ・同窓会中国支部会に石川教授が出席 7月6～7日
- ・実習教会牧師との懇談会（出席者12名）7月21日
- ・前期授業終了 7月22日
- ・本校60年史編纂委員会（第1回）7月23日
- ・前期試験 7月23～24日
- ・教授会（第4回）7月28日
- ・ヘブル語通信講座スクーリング 8月3～4日
- ・卒業生研修会（第43回）講演「今日におけるペトロ研究——エキュメニズムの視点から」川島貞雄先生（元本校教務部長、新約学者）、現地学習ツアー、参加者55名、於・佐渡。8月24～26日
- ・職員旅行（長崎）9月7～9日

- ・臨床死生学研究所の設立記念会に出席・挨拶
- ・6月15日 同窓会神奈川支部会に出席（蒔田教会）
- ・7月12日 琴似中央通教会で説教
- ・7月13～14日 同窓会北海支部会に出席
- ・7月26日 町屋新生伝道所の江口公一主任担任教師就任式に出席
- ・7月7日 北支区連合祈祷会にて奨励（新宿西教会）
- ・8月23日 富士宮教会の福永秀光主任担任教師就任式に出席。
- ▼執筆
- ・「愛に生きた証人たち」（聖学院大学出版会）に「パウロ～苦難と弱さの理解」を執筆
- ・キリスト教教育事典に「牧会」の項を執筆
- ・教師の友2010年1～3月号に「子どもたちに死をどう伝えるのか？」を執筆

## ■ 鈴木脩平教務部長

- ・5月16日 日本宣教学会理事会に出席（於・清泉女子大）
- ・5月26日 教団東京教区総会に出席
- ・6月27日 日本宣教学会全国研究会において研究発表「ニュービギンの宣教学入門書（オープン・シークレット）の翻訳作業を通して学んだこと」を担当。於・本校
- ・6月29日 教団・神学校等人権教育懇談会において本校の人権教育について発題 於・本校
- ・雑誌「信徒の友」7月号に「親の背中」を執筆
- ・7月20日 故藤田眞佐子牧師葬儀に出席 於・福島勿来